

めなど教育をめぐる諸問題の克服、21世紀に生き、未来を創造することのできる心豊かでたくましい人間の育成等、様々な国民的要請に応えるため、現在教育改革が進行しています。

そのような中で、学校教育が大きく変わるためには、何よりも日々の子供と直接的な接点を持ち、学校教育の中軸をなす授業の担い手である教員の一人一人が変わらなければ学校教育が変わるはずはないとされています。

このようなことから、今年度は、教員の資質の向上や研修の重要性にスポットを当て、「学校が自校の教育課題解決のため行う授業改善のための校内研修」を特集題として取り上げることにしました。

【学校における校内研修の現状】

佐久間 まずはじめに、「学校における研修の現状」についてご意見をお聞かせください。問題点や課題をあげるとしたらどのようなことがあげられるでしょう。

網代 小学校では、自校の教育課題の中から特定の共通テーマを設定し、一つの教科を対象とする研究を全職員で進めるのが一般的ですが、そのよさを十分認めつつ、そこに次のような問題点があることを指摘したいと思います。

第一は、テーマや対象が狭いため、学校教育の内容・環境の変化や学校への内外の多様な要請に十分対応しにくいこと。

第二は、様々な職員すべてに同様の内容と水準が求められがちで、個々の関心・必要・能力に即応できず個性の発揚を促しにくいこと。

第三に、研修主任等特定の職員がよくも悪しくも研究推進に大きく関わって研究の成否を左右しがちであり、その指導性が強くても弱くても



網代光平先生

も問題を生みやすいこと。

第四に、同人に相互の頼り合い等が見られて主体性が希薄になったり、研修時間の制約や人間関係等による安易な妥協から研究姿勢が甘くなりがちであること。

第五に、これは強調したいのですが、職員個々が抱く《教師生涯をかけた発達課題の達成》や《自己実現》、《職場における自己存在感》や《貢献意識》、《研究を自ら開発する喜びや成就感》…これらは総じて教師の《生きがい》につながるものかもしれませんが…、こうしたものの形成に必ずしも最適ではないこと。

こうした視点から、今、校内研修を見直す努力は不可欠だと思うのです。

松崎 校内研修は、教育目標具現のための課題解決方法の一つであり、また教員の職能の向上には欠かせないことです。

その点では校内研修は最も大切なことであり、わたしは、学校経営の第一義に考えております。

ほとんどの学校は「共同研究」の形で推進されているかと思いますが、教職員のニーズも多様化し、年齢層も変わってきているので、内容や運営の面では工夫が必要ですね。

また、書店の方の話によると、先生方があま